
編集後記

医療を取り巻く外的課題として、貿易立国日本にとって環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）よりも厳しい二国間協議を掲げるトランプ（保守主義共和党）が第45代米国大統領となったことである。今後、わが国の経済環境は厳しさを増すことが予想される。高齢者増加による社会保障費の逼迫への対応に加え、最近の医療の現場において、高額遺伝子治療薬や免疫治療薬ニボルマブ（オプジーボ）の適応拡大による医療保険制度の疲弊に対して、薬価低減と医療技術の費用対効果の評価と活用（増分費用効果費・質調整生存年）が検討されている。また、一般病院の運営事業を主たる業種とする法人の売上高調査（東京商工リサーチ TSR）において、2012年度決算では売上高上位50法人では3法人が最終赤字で、2016年度決算では19法人が最終赤字となっており、医療機関の経営が厳しい状況である。JA 埼玉厚生連の破産を他山の石として、医療の質向上と病院経営の効率化という難しい対応が望まれる。内的課題としての施療者欠乏の対応や医療の質マネジメントシステムを参考に改善を図っているが日暮れて道遠しである。日常管理において、国を組織と置き換えると、ジョン・F・ケネディの言葉「国があなたのために何をしてくれるのかを問うのではなく、あなたが国のために何を成すことができるのかを問うて欲しい。」は示唆に富む。

さて、10年来本誌の編集業務に携わり、ようやくワード・エクセルの電子版投稿が定着し、編集校正の手間は増えたが運営経費を10分の1に削減できたことは喜ばしいことである。しかし、書式において、論文の構成における結果と考察の違いがいまだによく理解されていないことが残念である。すなわち、投稿論文の研究でわかった「事実」と私見・文献引用の「考察」が混在して述べられる為に、読者が結果と考察を判別できない。更に、参考文献と同様の結果が得られたとしても、研究対象が異なるので同様の結果であってもその地域に特有の結果が含まれているはずであり、その対象患者に直接接した施療者の考察に独自の思い入れがあってしかるべきであろう。校正側としては、その著者特有の感性に基づく考察が記載されることを期待しているのであるが、県民性なのかやや謙虚で消極的な考察となっている。是正として共著の指導者や上司による校正を、改善として更なる今後の研究会等での継続的な発表と討論に期待したい。そのような中で緩和ケアチーム近藤まなみ栄養士さんのトロミ剤カキ氷の短報は、短編ながら日常の小さな興味と努力が淡々とした文章で綴られているすばらしい文章でした。

（文責 五十嵐、2016/12/25受付）

以下に、昨年までの本誌に発表された論文一覧を掲載した：